

■ 日時 令和4年10月28日（金）午後3時30分～午後5時00分

■ 場所 宇都宮市役所 14階 14A会議室

- 議事 (1) 「(仮称)第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」策定に向けた課題の総括について
(2) 「(仮称)第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」の基本的な方針について
(3) 「(仮称)第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」の骨子(案)について

■ 出席者

【委員】福田智恵委員, 手塚英和委員, 檜山和子委員, 桶田正信委員, 興野憲史委員, 浜野修委員, 三坂茂晴委員, 木村由美子委員, 長谷川万由美委員, 松本カネ子委員, 中野謙作委員, 岩井俊宗委員, 石井由貴委員(13名)

【事務局】[保健福祉部] 参事(地域共生担当)

[保健福祉総務課] 課長, 課長補佐, 地域共生企画グループ係長, 職員2名
[高齢福祉課] 課長, 相談支援グループ係長, 職員1名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 無

■ 会議経過

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事

- (1) 「(仮称)第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」策定に向けた課題の総括について
(2) 「(仮称)第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」の基本的な方針について
(3) 「(仮称)第5次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」の骨子(案)について

4 その他

5 閉 会

《発言要旨》

発言者	内容
<p>3 議事 (1)(2)(3) 長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の総括について、まずご意見・ご質問をいただきたい。
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 概ね入れたら良いと思っているものは、課題の総括に入っている。誰もが安心してという福祉計画において、これまで視点が入っていなかった犯罪を犯した人の再犯防止についても、どこかに入れれば良いと考える。課題の総括に入るとしたらどこか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 再犯防止については、市民が抱える複雑化・複合化した問題や支え合いによる地域作りといった部分で、盛り込めればと考えているが、現状その再犯防止に係る課題を導出するためのデータがまだ整っておらず、今回の整備の文言としては表示できていない。もう少し精査をし、どこに繋げていくかについては、再度調整したいと考えている。
<p>手塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 再犯防止関係については、地域における問題という捉え方であると思うが、自治体の役割分担として、宇都宮市が担う分野と栃木県が担う分野と再犯防止関係については、主だっってどうやっていくのか。再犯防止について、計画の中で触れることは可能かもしれないが、施策事業として、その後、具体的な事業までつなげていくとなると、荷が重いのか、役割分担が違うのか、説明をしていただければと思う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活安心課において分野別計画を持っており、その施策を確認し、調整した上で、行政の役割はどこまでか、地域にお願いするところがどこまでかという点について、改めて整理をしたいと考えている。 地域福祉計画の中で、再犯防止についても、施策として盛り込むべき事項ということで示されているため、何らかの形で整理をして、分野別計画に掲げるのか、上位計画のやさはぐ計画に掲げるのかということについて、考えていきたい。
<p>桶田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現実に地域で一番の問題になっているのは、安心安全まちづくりであり、まず自治会の加入率が60%を切っている状況にある。危機的状況であり、まちづくりの基本ができなくなってしまうと懸念している。宇都宮市において、自治会加入率は、70%を切る、50%を切る、そうすると、15万人・20万人の人たちが自治会に加入していないということになる。そういう実態を行政は把握しているのか。 また、今朝のニュースで、小学生・中学生で不登校の児童生徒が、21万5千人という発表があった。そのうちの10万千人がフリースクールやケアを受けていない。宇都宮の行政において、そういった実

事務局	<p>態を把握しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会加入率については、具体的な数字について、把握をしていなかったところではあるが、ブロック別意見交換会の中においても、そういったような声が聞こえており、市としても課題認識を持っている。 不登校の人数については、資料1の4番「地域福祉を取り巻く環境」において、前回の不登校がひきこもりに繋がるというような意見を踏まえ、その数字も押さえておくことが望ましいということで、不登校児童と生徒数を今回把握したところである。 こちらは、令和2年度の数字であり、一定のコロナ禍ではあるが、今後、情報等については調査を行う必要があるものと考えており、現状としては、令和2年度の数字ということで押さえている。
桶田委員	<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂の問題について、宇都宮は非常に遅れており、今年になってネットワークができた。栃木県には、50を超える子ども食堂があり、活動が行われているが、一步踏み込んだ実態の把握をしてもらいたい。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 課題の総括について意見を伺っている。具体的な取組の内容についての質問になってきているため、先に進める。 基本目標1の内容について、意見を伺う。
手塚委員	<ul style="list-style-type: none"> 課題の整理の仕方として、1番と2番目の部分の入り繰りが非常に難しいと思う。課題の整理の中で、市民活動への関心や参加意欲という整理の仕方が、市民活動への興味関心で、ここは活動に対する参加意欲なのか。 その次は、住民同士の支えあいという形で、活動ではなくて、いわゆる「向こう三軒両隣」など何らかの市民活動あるいは福祉活動など支え合いへの関心を高めるのか。 一人一人の意識付けや福祉に対する関心を高めていくことがベースにあるような気がするが、いきなりその活動、活動への関心となっており、対処する行動がないと、関心を高められないというような構造になっており、支え合いという認識そのもの意識そのものを高めるというのが一番のベースにあるのではないか。 そうすると、1番目と次の項目のやりくりが難しいため、書き分けをきちんと意識された方が良いと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 絆・繋がりへの市民意識の醸成の部分は、市民活動というより、支え合いの意識をまず醸成し、次に、2番の地域作りのところも、もし

石井委員	<p>かしたら順番が逆だったかもしれないが、住民同士の支え合いの促進がまずあり、そこから参加していただくというような流れをイメージして作成した。表現については、もう少し工夫したいと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉のまちの姿において、自助、互助、公助とあり、それぞれ思いやりがあふれるまち、地域で支え合うまち、安心快適に暮らせるまちという3つに対応しており、それが基本目標1・2・3に対応している。そういった点を念頭に置くと、この課題の総括については、個人の意識にフォーカスするのか、コミュニティとしての互助・共助の部分なのか、3つ目の行政的な仕事という分け方であると解釈した。最後の資料については、分け方のイメージがつきにくいと思われる。市民の方が資料を見たときに、分け方がわかるよう、自助・互助・公助がわかりやすいと思われるため、キーワードで分かれていると、把握しやすいと思う。
三坂委員	<ul style="list-style-type: none"> 自助・互助・公助とあるが、これはあくまでも災害時のときに使っている言葉な気がしてならない。自助・互助・公助が、今回の福祉のまちの姿にどう結びつくのかわからない。住民に見せると、災害時の話をしているのかと言われるような気がしてならない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回につきましては、支え合いという視点で、自助・互助・公助を整理した。自助については、個人が自ら活動に参加したり、家族同士で支え合ったりすることを今回の自助の支え合いというような形で整理をした。互助の支え合いについては、自治会やまちづくり協議会など様々な地域の皆様との支え合いを今回互助というような形で整理した。最後の公助については、公的なサービスでの支援、支え合いというような形で整理をした。きちんと説明した形で、今回のまちの姿として見せていければと考えている。
三坂委員	<ul style="list-style-type: none"> 自治会として、今は災害対策のためのマニュアルを作っている。呼び方は同じであり、住民の方に降りた場合にどのように思われるか。うまく分けて説明していかないと、とんでもない方向にいく気がしてならない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 確かに、自助・互助・公助というのは、災害の言葉という一面もある。わかりやすいということで、今回の説明で使ったが、誤解のないよう、表現は工夫したい。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 自助・互助・公助というのは、災害より前からの考え方である。多くの方が地域において、災害のときどうするかという捉え方をするので

木村委員	<p>あれば、少し説明が必要であると考え。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総括であるが、市民の複雑化・複合化した問題への対応について、これから重要になると考えている。成年後見制度の利用促進と権利擁護支援のニーズへのきめ細やかな対応が必要とあるが、これから高齢者が増えるに従って、認知症の高齢者も非常に増えてきていると思われるため、この成年後見制度の利用促進は、非常に重要な課題であると考え。 <p>利用促進もそうだが、成年後見制度の利用促進のためには成年後見人が必要となるため、その成年後見人に、例えば財産のない方が相談をして、そこにきめ細かく対応していただくためには、今の成年後見制度で活躍していただいている方たちだけで足りるとは思えない。成年後見人も人を育てることが必要なというふうに思いますので、その辺の成年後見制度の利用促進の中に含まれているのかどうか。もしそこがまだそこまでいってないのであれば、市としても市民後見人を幅広く育て、一人一人に対応できるような人材育成が必要ではないか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の認識としては、成年後見人の育成までを含めて考えている。ただ、そのための施策・取組については、今回大きな方向性としては示したところではあるが、それに向けてどのような取組を行っていくのかというのが、施策の方向性で了承いただければ、それに向けて検討していくものと考えている。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほど議論があった本市の目指すイメージについても、自助の話があり、一人一人の福祉のこころをはぐくむということだと思うが、なかなかヤングケアラーや孤立孤独の問題というのは、この自助という言葉で追い込まれてしまっているケースも、今まで多くあったのではないかと思う。 <p>人づくりというところであれば、理解はできるが、「自助」と書かれてしまうと、自分のことは自分でやるものというように、やさしさというよりは突き放されているような印象を持ちると思われるため、今後、表現の仕方を検討いただきたい。</p>
手塚委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほどから話題に挙がっている自助・互助・共助の件であるが、災害と福祉の世界で言葉遣いが違うのではないかという意見であると捉えている。 <p>災害のときには、まず自分でやりなさいという話になっているが、福祉の世界でまず自分でやりなさいというようなスタンスをとるのか。ベーシックは行政が整えるものとして。</p>

	<p>行政によっては、なかなか賄いきれないものを地域で行ってくださいということになり、さらに、地域ではなくて自分の状況に応じたものについては、自分で補ってくださいという順番なのか。</p> <p>考え方の順番が、災害の場合と福祉の場合は同じなのか違うのか。言葉としては同じであるが、どうも違うのではないか。残す方向で考えるのは、私は好ましくないように感じる。</p> <p>災害において、自助・互助・公助を使っている場合が多い。歴史的には、福祉の方が先であるが、今のトレンドをうまく説明によって補うことが果たして、今の時期にあえて使うことがよろしいのかという疑問がある。</p>
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> この件に関して意見があれば発言願いたい。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> 提案であるが、自助のところは、人づくりというように括り、紫色の互助のところは、図を見ると場を提供しているように思う。場作りというふうにして、3つ目の公助のところは、行政が整えていくような体制作りというような形で分けると、わかりやすいのではないかと考える。
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> 自己責任と一時期すごく言われたが、必死に生きている人の中には、自己責任で生きようと思っている人が多くおり、福祉の観点では、自助は社会参画をしていくという自ら社会参画をしていくという、どうやったら出てくる、作れるかというふうになっていると思われる。 そういう意味では、これを聞いたとき、私は自助・互助・公助、当時はわかりやすいと思ったが、今指摘されると、本当にそうだなというふうにする。福祉の観点では、自助というよりは、共助・公助が大変重要になってくる。支え合う社会のルールを作って、その支え合う社会をつくるために、どのように行政が関わっていくか、行政がどのように発信していくかということが非常に重要になってくると思いますので、確かにこの場合、自助・互助・共助は、すみ分けが適していないと考える。
三坂委員	<ul style="list-style-type: none"> 39の自治会連合会があるが、1人の方が自治会長とまちづくりを担当しているのは、26である。そこについては、自治会長も大きなまち作り協議会の会長も同じ方が務めており、地域がまとまっている。残り13については、自治会とまちづくりの会長は別である。私どもとしても、自治会とまちづくり協議会の会長は一緒の方がいいのではないかという議論をしているが、まとまっていない。 災害時に取り組んでいるのは、自治会、まちづくりと自主防災会の3つのグループである。そのため、ところによっては、3つとも会長

<p>会長</p>	<p>が違うというところが出ており、自治会の中でうまくまとまってるかと思うとそうでもないということをお話しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自助・互助・公助を例えば、人づくり・体制作りに変えていくという提案があった。 <p>私がもう一つ感じたのは、最終的に、助けが必要な状態にある人が、自分でやっていけるようになるというのが一番の目標であるにも関わらず、その点が全然入ってないということも、もう一つ問題なのではないかと思う。周りがやさしいところでというのは良いと思うが、やはりその人自身が考え、決めていけるようにということと考えれば、そういう意味では、自助という言葉を使うかどうかは別として、市民の一人一人がやさしさと思いやりだけではなくて、自分の生活で、自助で表したかったところを一言入れるということも必要であると感じた。</p> <p>そこが一番の目標であって、いつまでも周りが支えるっていうことのために、こういう仕組みを作るわけではないと思うため、この点は一つ総括の目標の中に入れても良いのではないかと。文言は、検討の余地がある。自助という言葉から受ける冷たいイメージがあるが、そもそもその目標は、本当にその自らが付くっていう力をつけてもらうことであると思うため、その点を活かして入れていく必要があると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自助・互助・公助に変えて、人づくり・場作り・体制作りという括り方はいかがか。
<p>岩井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この計画を大きく読み込んでみたときには、やはり当事者の声になかなかイメージできないと感じた。80歳の高齢者の家の庭の片付けを大学生と一緒にしているが、その高齢者は、朝のゴミ出しができない状況にある。その方は、朝のゴミ出しをどうするかをずっと考えており、地域の中の支え合いで考えれば、「ゴミ出すよ」と言ってくればすごく良いが、この高齢者の方は、地域に頼むということにすごく後ろめたさを感じており、自分もこれまで頑張って一人でやってこれたという自負もあるため、なかなか頼ることができない。 <p>助け合おうとする人たちがいっぱいいる社会は、本当に美しいと思うし素晴らしいと思うが、どこかしら当事者の人たちが、自分から何か頼りやすくなるか、そこへの訴求をする施策は入っていないのか。</p> <p>ただ本当に苦しいときは、誰かに声をかけるということすら選択肢にないぐらいの状況になることもわかっている。そうなる前にという段階ではあるが、いずれにしても本人が前に進もうと思ったときに、手を差し伸べられるところに福祉の何か気持ち的な部分はあるもの</p>

<p>三坂委員</p>	<p>と感じており、少しでもいいから本人が前に行こうとする力をどうやって育めるかというのが、この計画の中からは読み込めない。</p> <p>本人が前に進む力をどうやって育めるだろうかというところがちょっと僕もまだ読み切れていないため、そのあたりがあると望ましい。</p> <p>機能や仕組みの話はあるが、いかに当事者本人の生きる力自体を高められるようにしていくかっていうところは、人づくり・場作り・地域作りもあるものと思っており、当事者本人の力を高められるような計画が望ましいのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市に災害時要援護者の登録制度があり、登録を進めているが、自治会の中で援護者制度を作り、対象の方を見守るとしない限り、自助については難しいものとする。 ・ 先ほどのごみの件については、ごみ減量課に申請を上げれば、紹介があるため、制度をお伝えし、市に申請することが望ましいと考える。
<p>檜山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今も自助・互助・共助・公助という言葉もあるが、「向こう三軒両隣」が基本ではないか。人間が生きていくには、お互いに助け合いながらがいいものと思う。高齢者に「何かお変わりありませんか。」と聞いても「いや大丈夫です。」と言われれば、「そうですか。何かあったら言ってくださいね。」というように、なかなか自分からは言い出せない状況にある。民生委員が関わる場合もあるが、「向こう三軒両隣」が基本であり、自治会ともうまくいけるのではないかと。
<p>松本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自助・互助・公助については、その言葉を活かしていてもいいものと思う。栃木県に来て40数年、ずっとボランティア活動で毎日動いているが、その活動の中で、自助を本当に頑張っている人もいる。支援必要とする人は、ギリギリまで自分で頑張っている。 ・ 今の若い人たちは、すぐに生活保護に頼っているように見受けられる。自分で自分を叱咤激励をしながら生きられる、そういう社会は必要であると思う。共助が駄目であったときには、初めて税金を使う公助という流れにしていくことが望ましいのではないかと。何でもかんでも共助・公助となってしまうと、それぞれの人間性が最後まで行ききる自尊心、自立心が失われていくのではないかと。
<p>桶田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に65歳以上の一人暮らしが2千人おり、認知症の人も多いと伺っている。こういった問題を自分の地域で自治会や老人会でも支えているというのが、混乱状態にあり、相談するところはないような状況もある。そういう現場の生の実態について、行政の方たちもっと踏み込んだ認識をしていただきたい。

興野委員	<ul style="list-style-type: none"> 当分科会は、協議することが目的か。協議したものをどこかに下ろすのか。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 基本施策について、具体的になったものを次回検討するために、今この方向でいいかということ協議している。最終的には、審議会で承認を得たものを市における計画として市長に渡すということになる。
興野委員	<ul style="list-style-type: none"> 市長に渡ったあとはどうなるのか。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> それを生かして、宇都宮市の福祉を進めていくということになる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> この場でいただいた意見を反映させ、福祉のまちの姿や目標を立て、施策の大きな方向性を確定させていく。この場で全てが決まるということではないが、目標や施策の方向性について意見を伺い、それを踏まえ、また組み立てていく。この計画については、福祉分野だけではなく、市役所の関係各課へ数多く関わりがあるため、この計画に決めた施策の方向性で、各課がどういう事業をやっていくかなどを検討し、計画の中に盛り込んでいくというような流れになる。先ほどいただいた意見を踏まえ、修正すべきところについては修正をしていく。意見をいただいて、最終的な大枠について了承いただく。
会長	<ul style="list-style-type: none"> この機会に、新規の施策について、事務局から説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 新規の部分で、特に地域資源との繋がり支援を入れているが、複雑複合化したその分野がまたがっているような課題のある方の支援の一環というような形のことを考えており、そういった方が自立した生活ができるよう、その地域資源との繋がりや地域活動への参加に結びつけるような取組のイメージを持っている。 都市基盤作りについても、居場所や交流の場をハード面で整備するような取組をイメージしている。
中野委員	<ul style="list-style-type: none"> 福祉のまちの姿のイメージ図の中で、子ども食堂の記載があるが、今年度からこども未来課が宮っ子の居場所というのを始めた。親と子どもの居場所が5か所、子どもの居場所が今20か所に増えて、この子どもの居場所を将来的には小学校の全校区に持っていきたいという、他県ではない取組であると思う。きちんと計上し、広めていく方法を作ってほしい。
桶田委員	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地を利用した野菜作りを行っている。新たな社会活動が大

<p>岩井委員</p>	<p>事になってくると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> この計画の次の5年というときに、もう一つ次の何が起きるかなと思うと、外国籍の方たちが定住されるっていうことがやっぱり増えてくるだろうと思わる。これまでの福祉という概念においては、ハンディキャップや子どもからお年寄りまでというような、我々日本人をベースにした発想があったと思うが、外国から来た方の中にも、言語の問題で暮らしづらかったり生きづらかったりっていうことを抱えている方はいるとすると、ともに宇都宮に住む外国の方たちということ念頭に置いてこの計画が推進されることを期待したいし、議論したい。
<p>手塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の方の受け止め方の中には、例えば8050やヤングケアラーなどテーマがあり、施策事業としては起きていないが、相談体制の充実だとか全体的な括りの中にそういう問題も含まれているのか、施策事業のレベルがどのレベルなのかわかりにくい。個別計画での取扱いを含め、仕分けをしていただければありがたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施策については、大きく括っており、8050やヤングケアラーの支援体制についても検討しているところであり、取組レベルの整理になるものと考えていたところである。今回、施策の方向としては、例えば、施策の「安全快適に暮らせるまち」の「保健と福祉に関する相談支援の充実」のところの取組としてこう並べるなど、そういうようなところを想定していた。
<p>手塚委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画としてきちんと押さえているということが表に出てこないため、取組が計画から漏れているのではないかと思われないう、工夫が必要であると考える。
<p>木村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「共に支え合う地域づくり」の中に、「多様な主体による地域の活性化、地域の社会の支え合いの構築に向けた支援」がある。地域包括ケアシステムの取組は、この「共に支え合う地域づくり」に入らないのか。地域包括ケアシステムの充実について、重要であると認識しており、位置付けてほしい。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムについては、計画において、「多様な福祉サービスの充実」の相談支援の充実や、福祉ネットワークの強化に入っており、今の計画においても、設置が進んでいないところもあるため、引き続き入ることになるのではないか。

三坂委員	<ul style="list-style-type: none"> 今後のスケジュールについて、最終スケジュールの着地点はどこのか。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉計画を作るということである。
福田委員	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標1の「福祉のこころをはぐくむ人づくり」について、人づくりと、自分の意思決定や自立というようなところを考えたときに、基本目標3に入っている「情報提供の充実」については、困っている方や自分で何かをやろうと思っている方に情報がちゃんと届くような括りとして、基本目標1に入ってもいいのではないか。 5年後となると、高齢化がどんどん進んでいくため、地域の担い手という方々も高齢化していく。そこに若い方々が入っていけばいいが、なかなか難しい状況にある。参加意欲も低い状況にあり、ここが一気に上がっていくとは思えない。醸成していくという意味においても、地域組織や市民団体への活動の支援という視点があればいいのではないか。 全体でいくと幸福度など、今はやはりキーワードになっていると思われるため、健康寿命の延伸なども入ることが望ましいのではないか。 基本目標2の基本政策3「地域交流をはぐくむ都市基盤づくり」について、働くという要素は基本目標3に入っているが、人づくり、場作り、体制作りという括りで分けた場合には、多様な働き方ができるような場を提供していくという都市基盤が働くというところに繋がってくるのではないかと思われる。そういった視点をここに持ってきてはどうか。 新規の「地域資源との繋がり、支援」においては、孤立が社会問題になってると思うため、孤立を防ぐ場作りとか、生きる力をはぐくむ、人の交流・繋がる場作りといった視点を加えて施策が組み立てられたら良いと考える。 「地域の多様なネットワーク機能の充実」のところの取組例として「宮っこステーション事業の推進」が挙げられているが、宮っこステーション事業と宮っ子の居場所作りというのを併記するのか。宮っこステーション事業については、業務委託している状況があるため、検討の余地がある。 基本目標3の「安心快適に暮らせるまち」について、「身近な相談窓口の充実」という部分が必要だと思うため、ここで相談窓口の充実を取り上げていただきたい。身近なところで相談に乗っていただける場を作っていくということが、安心安全に繋がることだと考える。また、緊急時の助け合いの体制作りについて、触れても良いと思われる。 全体通し、第6次総合計画改定基本計画を策定しているところであ

<p>興野委員</p>	<p>り、計画と整合性を図るとともに、宇都宮市はSDGs 未来都市であることから、SDGs の区分けなども入ることが望ましいと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度より、精神障がい者に対する医療費の助成が認められるようになった。福祉手当については、まだ認められていないため、お知らせする。
<p>浜野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> イメージ図の市民の部分について、それぞれの思いを持って生活していることから、他人に関わりたくない人もいれば、お世話になりたいという人もおり、そのことを知る人たちが必要になると考える。実態把握の中で、この方はリスクを持っているのに、これだけの自助で暮らしているなど、把握する場所が必要で、その方が何かあったときに、宇都宮市が進める共生型地域包括支援センターの人たちは、地域において顔の見える関係になっていなければならない。みんなそれぞれの気持ちを持ってますから、しっかりと言葉にする体制を作ると感じた。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 情報のバリアフリーについて、デジタル技術を活用できるようという点が強調されてるような印象がある。あくまでも情報を入手できるようにということが目的であり、ICTはその手段であるため、障がい者の情報アクセスビリティの法律に配慮した表現としていただきたい。 外国人の方が定着して一緒に暮らしていくことを考えた際、情報がきちんと受け取れるということを入れていただきたい。 新規の地域資源とのつながり支援について、市が適切に問題をキャッチして地域の資源とつないでいく専門に動ける方が必要であり、地域の様々な福祉に繋がる目をキャッチするためには、コミュニティワーカーを増員していくことが望ましい。検討いただきたい。